

# 柘植地域 まちづくりだより 第272号

発行

柘植地域まちづくり協議会事務局

三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地

(柘植地区市民センター内)

〒五一九一四〇二  
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三



柘植地域俳句コーナー

赤き実の

小枝揺らして

小鳥来る

富田 鋭子

## 令和3年度 第一回・防災委員会 開催

去る7月29日(木)夜8時から、柘植地区市民センターにて、今年度初めてと為る第一回『防災委員会』が開催されました。

コロナ禍の影響で本委員会も順延されておりましたが、漸く開催の運びと為り当日は関係者・34名が一堂に会し、冒頭町田防災委員長の開会挨拶に引き続き、全出席者にて自己紹介。

新たな区自主防災委員各位は、(敬称略) 中川寛章(岡鼻) 福永泰治(小林) 藤井建(柘植青葉台) 富井康史(上町) 坂口博康(下町) 余野忠徳(倉部) 松山宗達(小杉) 藤井広司(山出) 植田雄二(前川) 大橋稔(上村) 梅田吉彦(野村) 佐治恒夫(中柘植) 以上の12氏が就任されました。『嘱託委員』として『委嘱状』を受領した「指定避難所施設管理者」の、峯 柘植中学校長・松本 柘植小学校長・奥出 柘植保育園長、「警察・消防」から三宅 柘植駐在所 巡査部長、藤生 伊賀市消防東分署長、山本

伊賀分団第一部長、「行政」から伊藤 伊賀市総合危機管理監、大橋 いがまち人権センター長、清水 柘植地区市民センター長、岡嶋 災害時柘植地区市民センター配備委員、小林 伊賀市社会福祉協議会 社会福祉士が出席した次第です。

その後、服部事務局長から事項書に沿って協議・連絡事項各件の説明が有りました。

主たる事項として一、令和3年度・防災委員会事業計画(案)年間行事予定・事業計画概要 二、令和3年度・第一回 初動リダー会議実施計画 三、防災啓発活動(災害時のプロパンガス復旧要領について) 9月25日(土)10時、於・柘植地区市民センター(参加者)各区2名(区防災委員を含む)及び防災委員会事務局(計35名) 講師・上野ガス(株) 阿山出張所長・中義明氏 四、その他連絡事項 ① 伊賀市自主防災組織活性化促進補助金交付申請について ② 防災こころ笑(へえ)カレッジの件 等々、災害発生時に柘植地域住民が一体と成って活動出来る様、防災訓練や初

動りリーダー訓練、防災啓発活動の重要性等々主旨説明が有りました。

「顔の見える関係作り」、コロナ禍で制約が多い中「中止するのでは無く、出来る事を遣る」ポジティブな考え方で事業計画を進めて行きたいとの意向です。

### ※ 「防災訓練」のお知らせ

柘植まち協「防災訓練」を左記日程で行います。

【期日】 10月3日(日) 午前中(8時を以って発災)

【訓練内容】 「安否確認」と報告訓練、等

各区毎で必要と思われる独自訓練も有ります(分散避難体験訓練・車両避難・停電断水下で災害用井戸からの取水訓練、等々)

▼ 次回『防災委員会』は、10月29日(金)夜8時、柘植地区市民センターにて開催予定です。

## 天災は 忘れた頃に やって来る

物理学者で随筆家・俳人の「寺田寅彦」の言葉です。

寺田寅彦(1878・明治十一年生まれ)1935昭和十年没)東京帝国大学・理学部物理学科卒。理化学研究所・東京大学地震研究所に勤務し研究を続けました。

寅彦は科学者で或り乍ら文学など自然科学以外の分野にも造詣が深く、科学と文学を調和させた随筆を多く残して居ます。更に、夏目漱石を主宰者とした俳句結社「紫溟吟社」へしめいぎんしゃを起しました。

漱石の『吾輩は猫である』の水島寒月や『三四郎』の野々宮宗八のモデルとも云われて居ます。

### 【寅彦と防災】

寺田寅彦は研究者として火災や地震等の災害に関心を持って居ましたが、1923年へ大正十二年九月一日に発生した日本の災害史上、最大の犠牲者を出した『関東大震災』へ死者・9万9千人／行方不明者4万3千人／負傷者10万人超／被災世帯69万世帯に依り、此れ迄以上に「災害」「防災」に深い関心を示す様に為りました。

1934年(昭和9年)、寅彦の代表的な随筆と言われている『天災と国防』を発表。

本書の中で同年に発生した函館大火・手取川大水害・室戸台風に依る大災害を取り上げ「文明が進めば進む程、自然災害に依る被害が増大する」事を指摘し、本書の中で次の様に記しました。

「文明が進むほど天災による損害の程度も累進する傾向があるという事実を十分に自覚して、そして平生からそれに対する防禦策を講じなければならぬはずであるのに、それが一向に出来ていないのはどういう訳であるか。その主なる原因は、そういう天災が極めて稀にしか起こらないで、丁度人間が前車の転覆を忘れた頃に、そろそろ後車を引き出すようになるからであろう。」

寺田寅彦は其の後に書いた随筆でも『防災』について記述し、「天災に依る被害を忘れる事への危険性」を訴求し続けました。

【天災は 忘れた頃に やって来る】という言葉は弟子の科学者達によく口にされて居たと言われて居ます。

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」・・・どれだけ苦しかった事も、過ぎ去れば全く忘れて仕舞うのが人間の常ですが、矢張り防災の基本に立ち返り、「備え有れば憂い無し」で参りましょう。

## 9月1日は、【防災の日】

因みに、本号発行日の本日9月1日は、「防災の日」として1960年(昭和35年)に閣議決定し制定されました。

前述の、1923年(大正十二年)9月1日に発生した『関東大震災』に因んだ日。

「政府・地方公共団体、企業等々関係諸機関・事業所等をはじめ、広く国民が地震・台風・津波・高潮等の災害に付いての認識を深め、此れに対処する心構えを準備する」事とし制定された「防災啓発デー」

此の「防災の日」である9月1日を中心として「防災思想の普及・功労者の表彰・防災訓練等、此れに相応しい行事」が実施されます。

例年9月1日前後は「台風」の襲来が多いとされる「二十十日」に当り「災害への備えを怠らない様に」との戒めも込められています。

「二十十日」・・・雑節の一つで、立春を起点として、二十十日目で、9月1日頃を指す。台風や強風の日が多いとされて居る

此の日は、全国各地で「防災訓練」が行われ、9月1日からの1週間を「防災週間」として設定されて居る次第です。

### 三重とこわか国体協賛

#### 【花の種】 開花しました

「三重とこわか国体」協賛活動の一環として「花の種」を播種したプランターで苗が育ち、8月初旬から蕾を付け中旬から開花し始めました。

朝顔・鳳仙花・千日紅・百日草・向日葵・松葉牡丹・罌粟・かっこうアザミ・サルビア・アスター・マリーゴールド・ダリア等々の「花の種」は「長野エクセラシオン高校」にて、種々育てられた様々な花の種を採取され、全国に送られているものです。

同校は、長野県松本市に所在する私立高校で建学の精神に基づき、全校生徒に依る「園芸活動」が行われています。園芸高校が前身で学校行事として、「花種子贈呈」活動が有り国体を開催する都道府県へ贈呈されています。

三重県で二度目の国体開催決定後、三重とこわか国体伊賀市実行委員会 経由で此の「花の種」入手希望が有り、市民センターから申し込んだ次第です。

5月の「12区連絡協議会」に於いて、各区長経由で「花の種」配付後、各区でも咲き始めました。併せて、柘植保育園・小学校・中学校へも配付した次第です。



上段は岡鼻区／下段は上町寿楽会にて植栽  
4頁は「市民センター」にて各々開花した  
様子ですへ三重とこわか国体協賛看板作成

#### 【平(ひら)農園】無償貸出しの御案内

今般、伊賀サービスエリアの南側に位置する、5反へ5千平米・約1500坪の農園【平(ひら)農園】を柘植地域にお住まいの方々に無償で貸し出します。

どのような野菜・果実・花木を栽培されても結構です。御用の方は市民センターまで御連絡下さい。《45-8880》



都美恵神社 祇園祭 奉納 花火大会

第41回「都美恵神社 奉納花火大会」  
 が去る7月24日に挙行され、宵宮では奉  
 納花火が打ち上げられた後、氏子十一地区  
 から提灯を持ち寄り「探湯」(くがたち)  
 神事が行われ、五穀豊穡・無病息災等が、  
 祈願されました。

【写真提供】 西 秀樹さん



おつめ  
 さます

☆☆☆ 編集後記 ☆☆☆

▼ 葉月行く 名残り留めん 抜け殻や 命  
 ひと夏 蟬時雨止む(則雄)・「蟬」は全  
 世界に約2000種生息、日本には30有  
 余種。雄の腹部に発音器があり、雌を呼ぶ。  
 地中生活が長くアブラゼミとミンミンゼミ  
 で約7年土中で暮した後、地上に出て来て  
 子孫を残した後、雄は約10日前後で其の  
 生涯を終えます。

▼ 北米に「17年ゼミ」と呼ばれるゼミが  
 居り、地中で17年間も過ごす種が居て、  
 17年周期で大量発生し生殖後、命を繋い  
 で7日で絶命。昆虫の中でも非常に特異な  
 生態を有する種が蟬です。

▼ 瞬く間に夏が行き過ぎ、気付けば早九月  
 「長月」の由来には諸説有りますが、昼間  
 の時間がどんどん短く為り、夜が長く為る  
 ので「夜長月」(よながつき)と呼ばれて  
 いたのが略されたと云う説が有力です。

『明けたかと思ふ夜長の 月あかり』

〈夏目漱石〉

▼ 「秋の夜長」にゆっくりと「本」を読み  
 込むのもよし。秋の恵みを楽しみつつ一献  
 傾けるは尚よし。残暑と初秋が入り交じる  
 季節の変わり目、御自愛下さい。〈清水〉